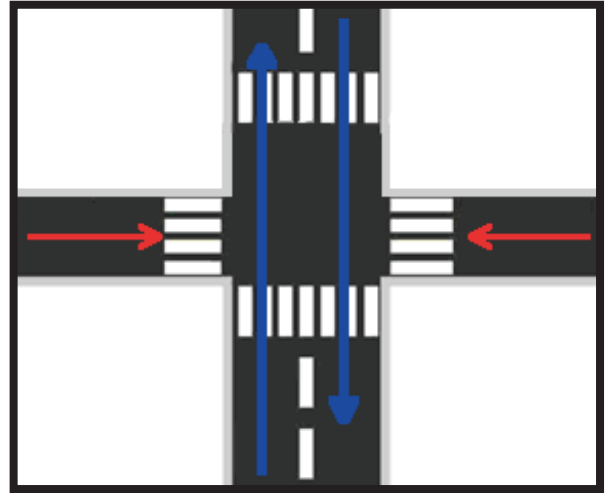


市街地走行（信号がない交差点）

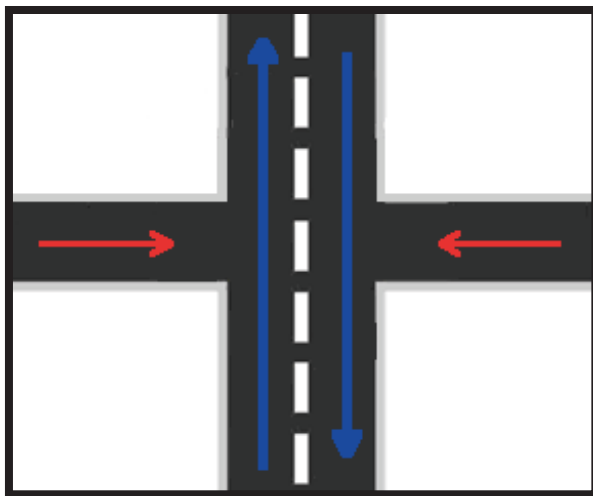
優先道路・非優先道路の見極め



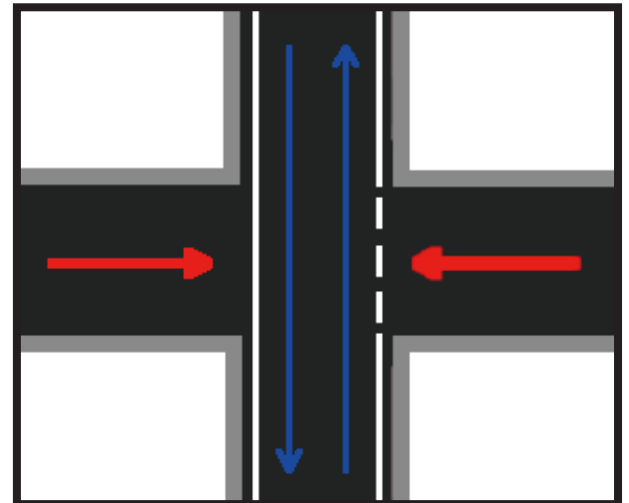
優先道路の標識



明らかに道幅が広い

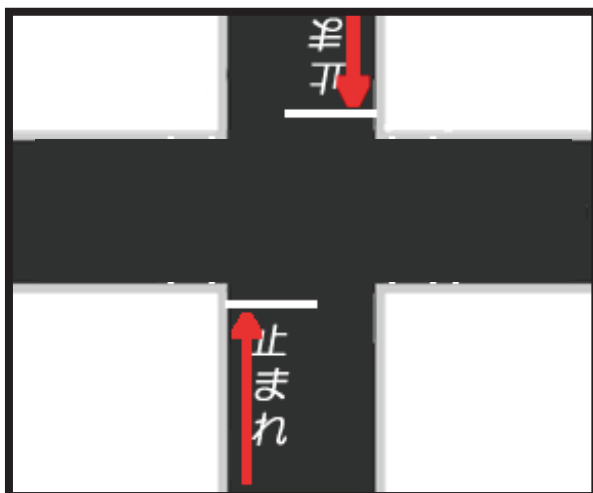


中央線がある

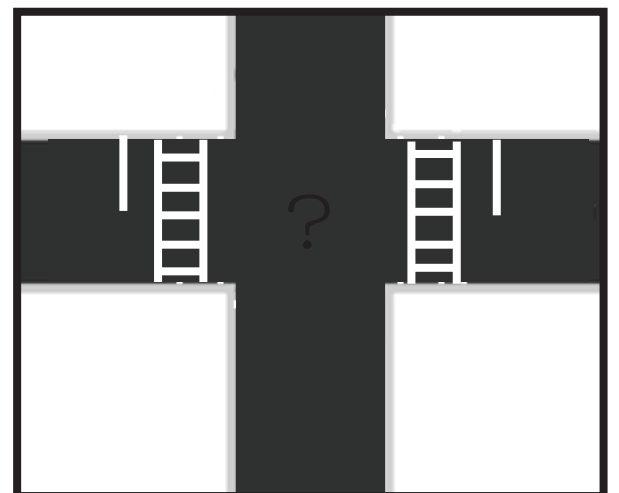


車両通行帯
実線と点線と2種類あり

両方とも交差点の中まで標示されている場合優先が決まる。

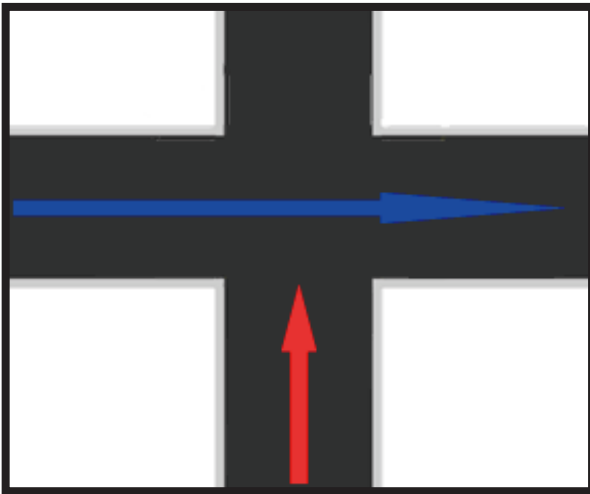


止まれの標識・標示
非優先



横断歩道
優先・非優先を決める標示でなく、
信号がない場合は歩行者優先となります。

同条件の場合の優先道路・非優先道路の見極め



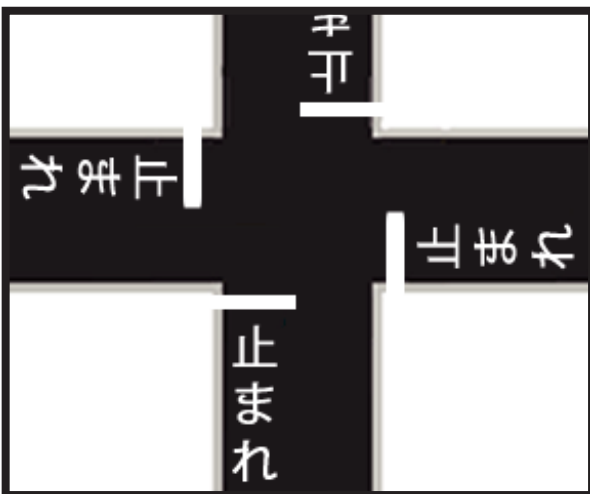
十字路の見極め

- 道幅が同じ
- 止まれなどの標識がない
- 規制ラインなし

などの優先・非優先が決めかねない交差点。(上図)

全方向止まれの交差点。(下図)

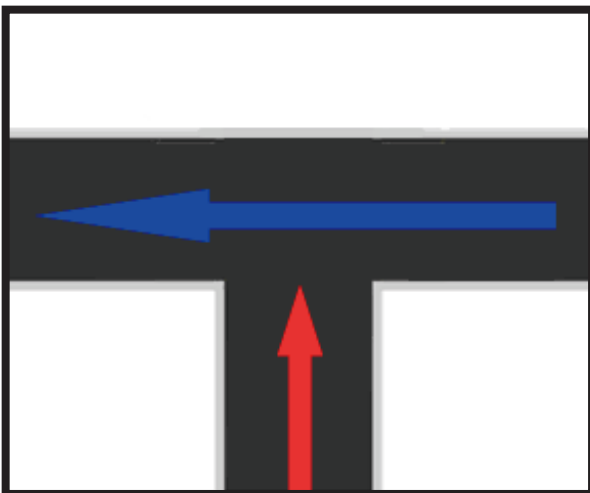
基本的に**左方優先**です。



左2つの交差点で、右左折する場合などは、
相手が非優先側でも手前で停止し
右左折しやすい状況を作りましょう。

非優先の場合もこちら側に進入する車両などを発見
したら一時停止線にこだわらず、手前で停止して相手
車両の右左折しやすい状況を作りましょう。

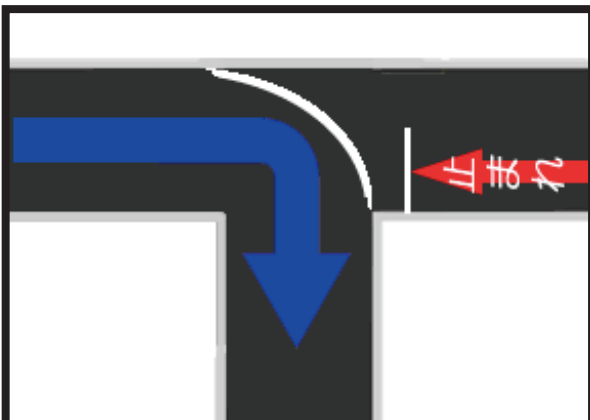
市街地走行では道幅も狭いところが多いので
譲り合いの気持ちを持ちましょう。



T字路の見極め

- 道幅が同じ
- 止まれなどの標識がない
- 規制ラインなし

などの同条件の場合は**左方優先ではありません**



稀に左の画像のようにガイドラインありの
T字路があります。

T字路というよりも、
右(左)カーブが本線と認識しましょう。

市街地走行（標識）



一時停止

停止線でピタッと止まりましょう。



進入禁止

一方通行の出口です。
こちらから進入してはいけません。



指定方向外進行禁止

上記の矢印では直進と左折しかできません。
左からは車両は来ませんが
飛び出しをしっかりと見ましょう。



一方通行

道路への車両の進入・通行が、
一方向だけしか許可されていないこと。



徐行

飛び出しが多い区域です。
徐行して気を付けましょう。



最大幅

この先道幅が狭いので
車両の最大幅の制限です。



歩行者・自転車専用

車両の進入・通行は禁止です。

市街地走行（道路の標示）



◇のマーク

この先に横断歩道があることを示しています。



スクールゾーン

地域によって通行止め・進入禁止・一方通行などの規制があります。
また規制がない場合もありますので、十分に児童に注意しましょう。



一時停止線

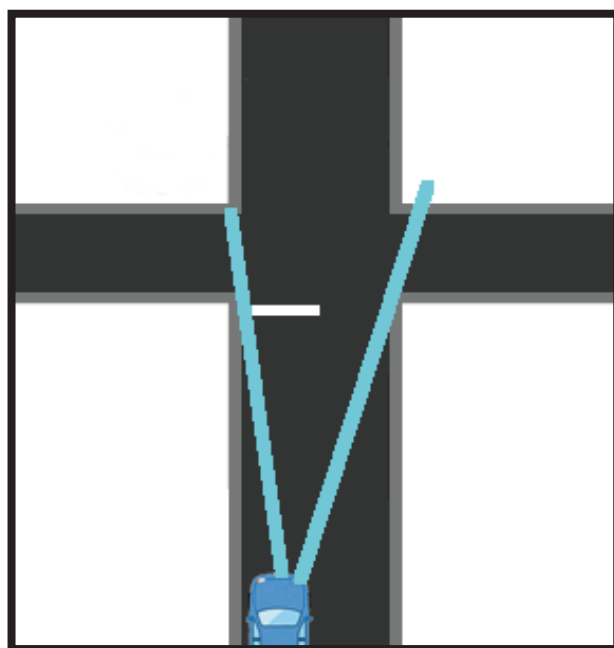
左図のように停止線が端から端までつながっていると進入禁止を意味しています。
進入してもよい道路の場合文字は端にずれていて、半分で停止線が切れています。

市街地走行（信号がない交差点）



中央線のない道路で交差点に信号もない道路を市街地（住宅街・商店街）道路と呼びます。人や自転車が飛び出すことの多い道路です。いままで優先道路でも、次の交差点では非優先道路になったりと、優先順位が目まぐるしく変化します。

市街地の基本的な走行



状況把握

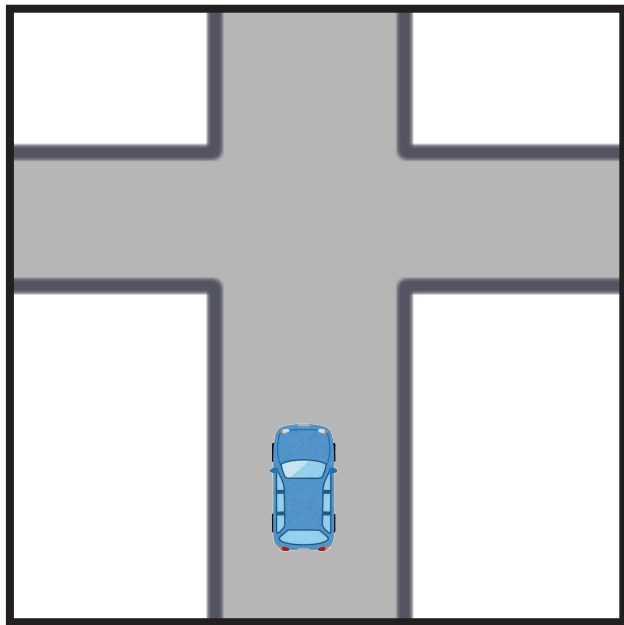
交差点約30M手前で速度を落とし前方の状況を確認します。

- 優先 or 非優先
- 右左折してくる車両
- 標識、標示
- カーブミラー
- 道路の広さ
- 歩行者や自転車

視野を広げて全体的に見ましょう。

状況確認後交差点に向かう。

市街地走行（優先道路直進）



①交差点手前でいつでも止まれる速度に落とし、ブレーキがいつでもかけられる準備をして、

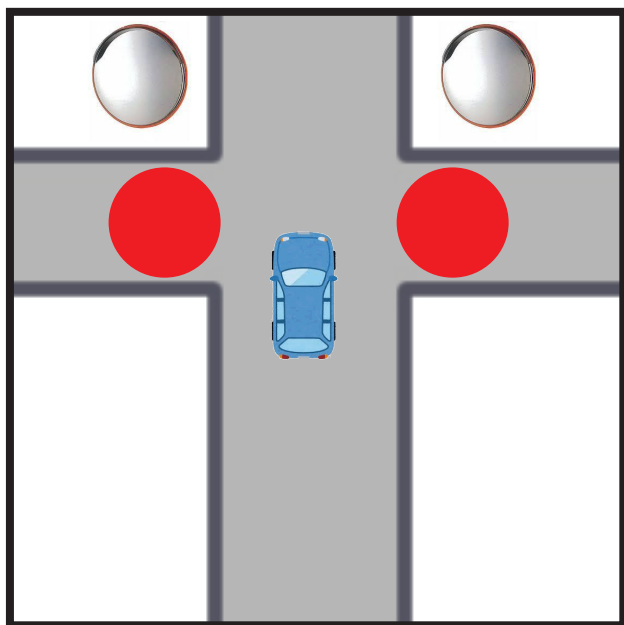
対向車がない場合は・・・センターキープ

対向車が来た場合は・・・左寄り

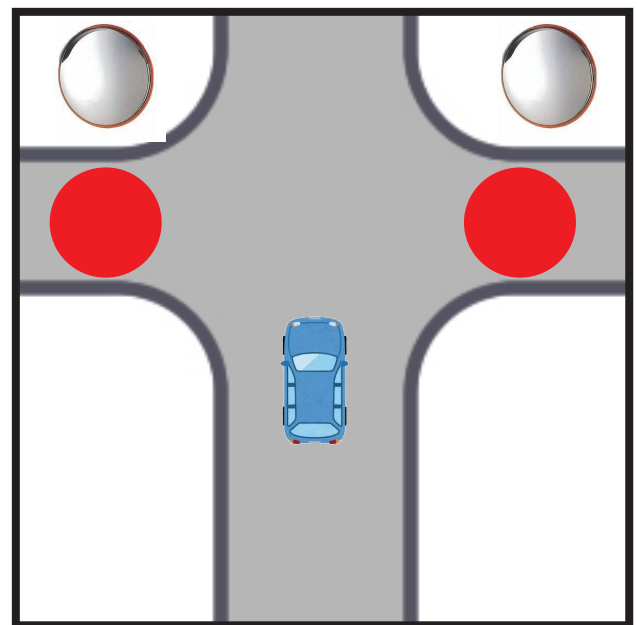
安全確認が終わるまではブレーキをいつでも踏めるように準備。

②自転車・歩行者・非優先からの違反車両等の安全確認（赤丸部分）ができれば、アクセルで、交差点通過。

安全確認は、なるべく首を振らずに目で両サイド同時に見る意識。カーブミラー等も活用しましょう。



直角交差点



隅切り交差点

直角交差点と隅切り交差点では、上図の付近までは進行しないと安全確認出来ません。

安全確認できる位置まではブレーキ準備です。

車両やバイクは優先車両の妨げはしないことになっていますが、人や自転車は、

一時停止も優先も関係なく飛び出しますので、必要であれば停止しなければなりません。

また、左右の安全が確認できてのに、交差点真ん中まで行き遠くの歩行者や自転車まで見てしまい、止まってしまうのはNGです。

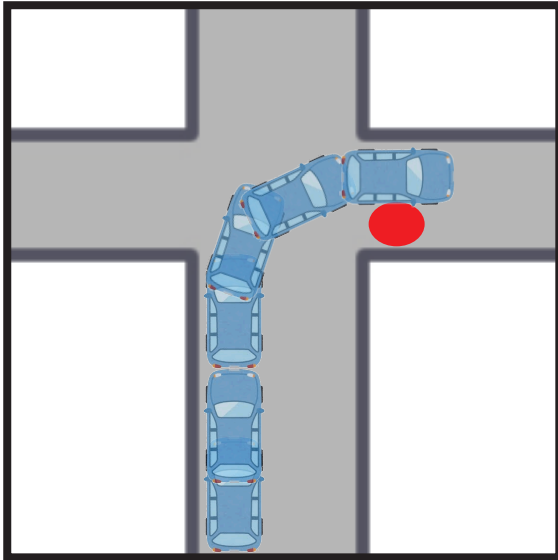
あくまでも優先なので、スムーズさも大事になってきます。

優先過信

車両やバイクが飛び出してくることも予測しなくてはならないのが現状です。

市街地走行（優先道路右左折）

①市街地の右折（曲がった先が狭い道路のときでも同様）

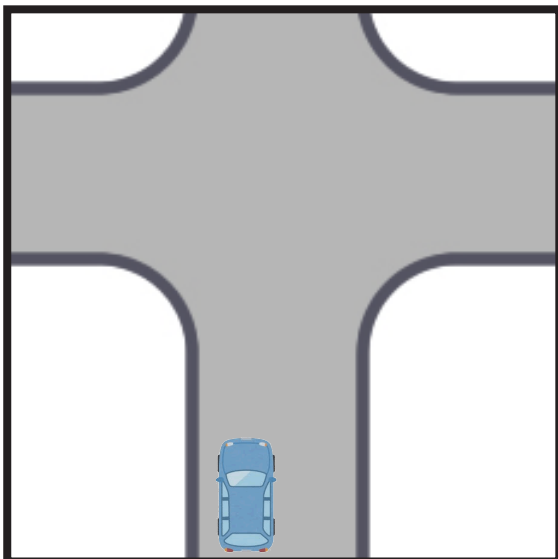


交差点手前で左に寄る。直進と同じで、飛び出しの安全確認後、更に左図の赤丸部分の**死角**の安全確認ができてから、ハンドルを切り、直角的なイメージで曲がる。

インカット走行は NG

もしも、対向車が来た時、又は右側の道路から車両が先に・直進右左折して来た場合は、交差点手前で停止して、右折しやすい環境を作る。

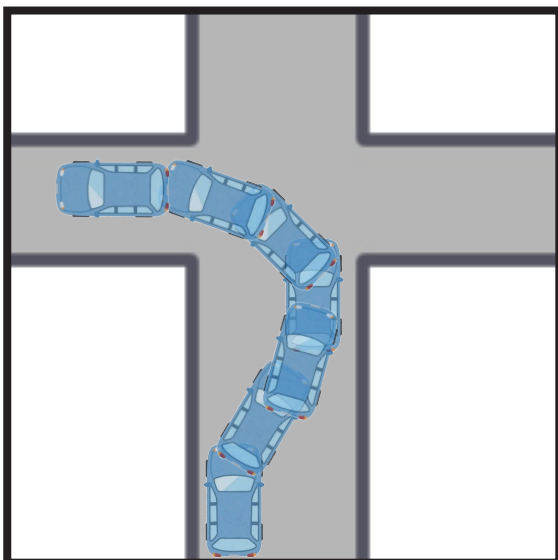
②市街地の左折（曲がった先が広い道路）



交差点手前で右側に車両が通れる程度左に寄る。
(なるべく左側にスペースを開ける為)
直進と同じで、飛び出しの安全確認後、左折を開始する。

もしも、左側の道路から車両が先に直進右左折して来た場合は、交差点手前で停止して、左折しやすい環境を作る。

③市街地の左折（曲がった先が狭い道路）



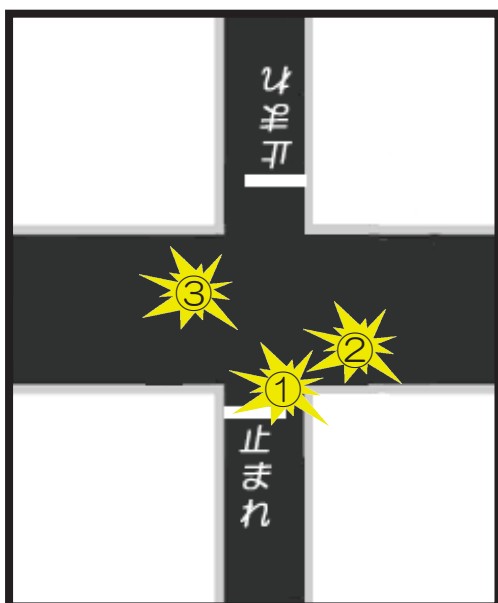
交差点手前で左側に寄る。
直進と同じで、飛び出しの安全確認後、左折を開始する。

もしも、対向車が来たり、左側の道路から車両が先に直進右左折して来た場合は、交差点手前で左寄りのまま停止して、左折しやすい環境を作る。

他車両と右左折するタイミングが重ならないようにする事がポイントです。

市街地走行（非優先道路）

人や自転車、優先道路の車両やバイクの状況を把握してから、交差点に進入します。



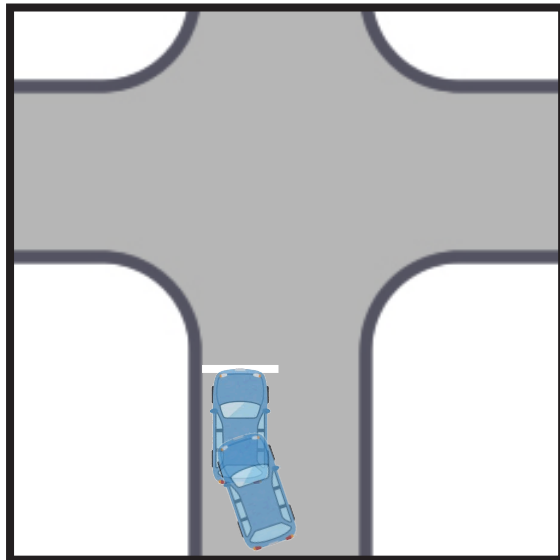
非優先道路の危険個所の順番

- ①自転車・歩行者
- ②右からくる車両・バイク
- ③左からくる車両・バイク

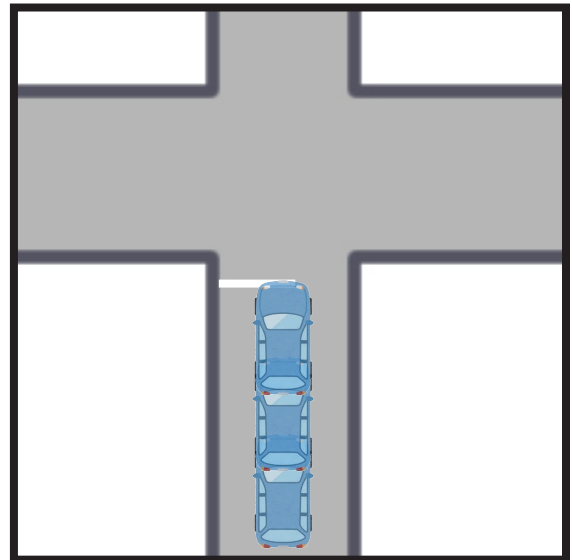
日本では車両は基本的に左側通行です。
危険個所には順番があります。
見る順番を考えましょう。

市街地走行（非優先道路直進）

①一時停止線までの走行経路と1回目の停止



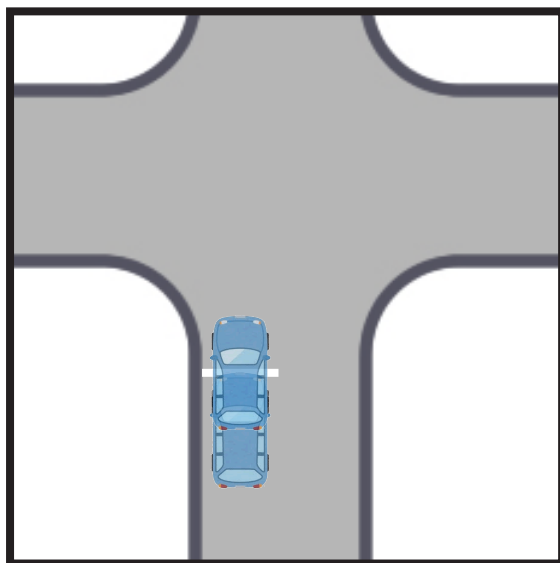
すれ違いができる道幅の時



すれ違いの難しそうな道幅の時・一方通行

左寄りにして停止線に向かいピタッと止まる センターキープで停止線に向かいピタッと止まる

②1回目の安全確認（道幅が広い・狭い、又は一方通行も同様）



歩行者や自転車がいないことを確認しながら

（両サイドを同時に見るイメージで確認）

自分の車両がいることをアピールするため

徐々に前に出まて、2回目の停止ポイントまで進む。

左右からくる車両とはまだ接触しませんが、

車両が来ているのがわかったらその場で

停止しましょう。（歩行者と自転車の場合も同様）

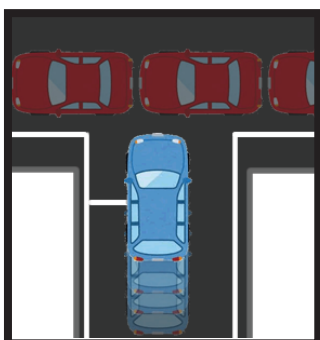
車両が通過したら、両サイド確認しながら

2回目の停止ポイントまで進む。

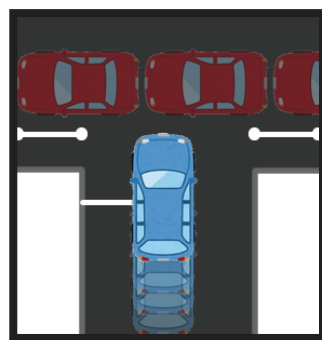
③2回目の一時停止（道幅が広い・狭い、又は一方通行も同様）

どこまで出るのがポイントになります。

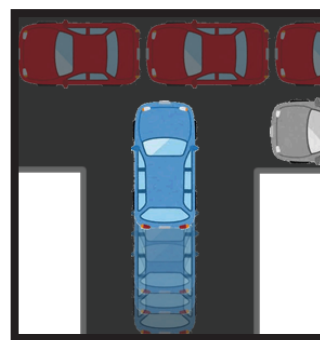
右からくる車両の進行を妨げない位置を発見し、前に出て、2回目の一時停止をしましょう。



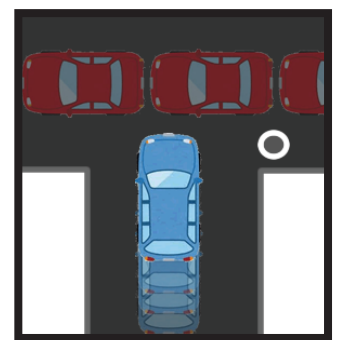
白線ラインまで出る



ガードレールまで出る

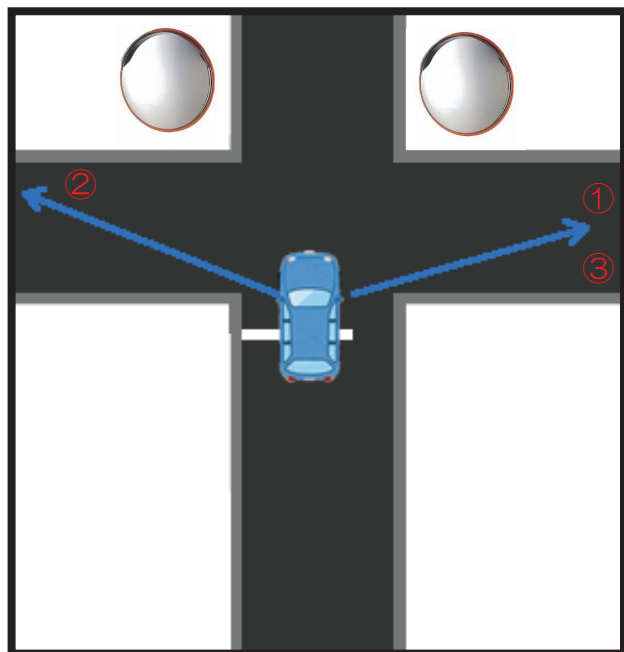


停車車両まで出る



電柱まで出る

④2回目の一時停止後の安全確認



交差点内への進入の為の安全確認が必要です。
日本の車両は左側通行になりますので、
見る順番が決まってきます。

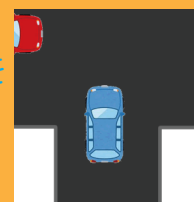
①右方向 ②左方向 ③右方向を見て出発

カーブミラーもうまく活用しましょう。

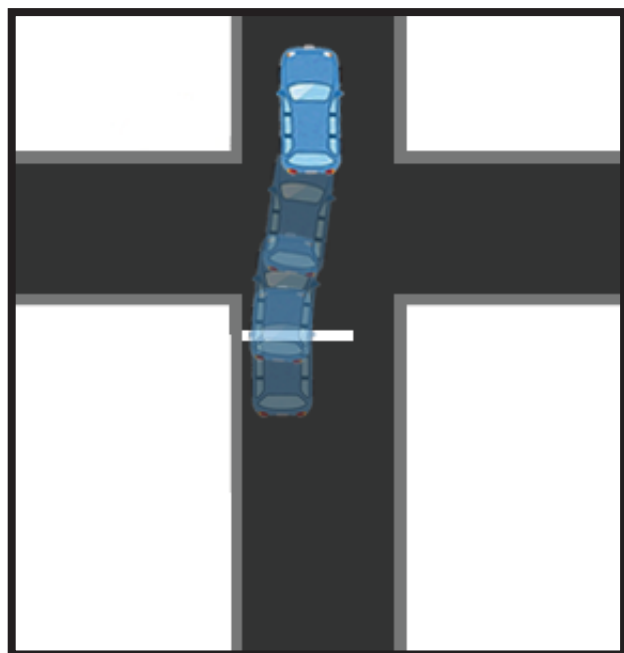
車両は速度が出ています。50m先まで
見るぐらいの確認が必要です。体全体を使い、
のぞき込むように確認してください。

一方通行でも、早い自転車などいますので、
両方見ましょう。

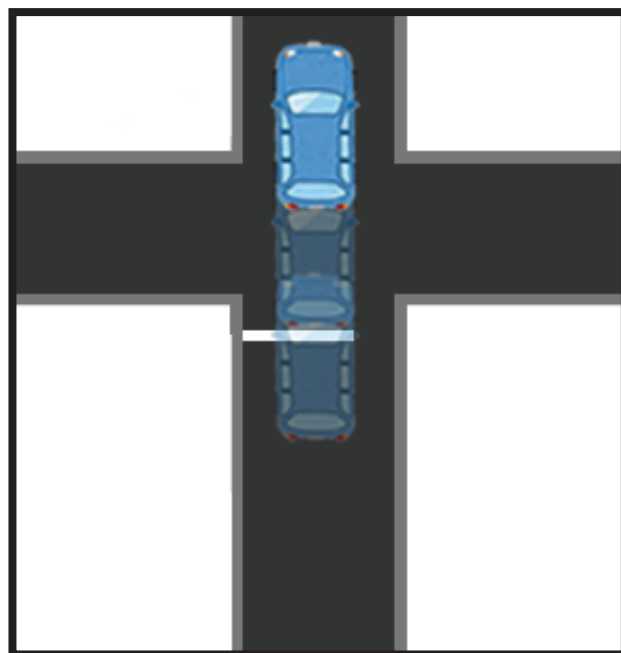
左から右ウィンカーを出し待っている車両がいると、あわててしまい右の安全確認を
忘れてしまう方が多くみられます。待たせておいて順番通りに安全確認しましょう



⑤交差点通過



道幅が広い道路



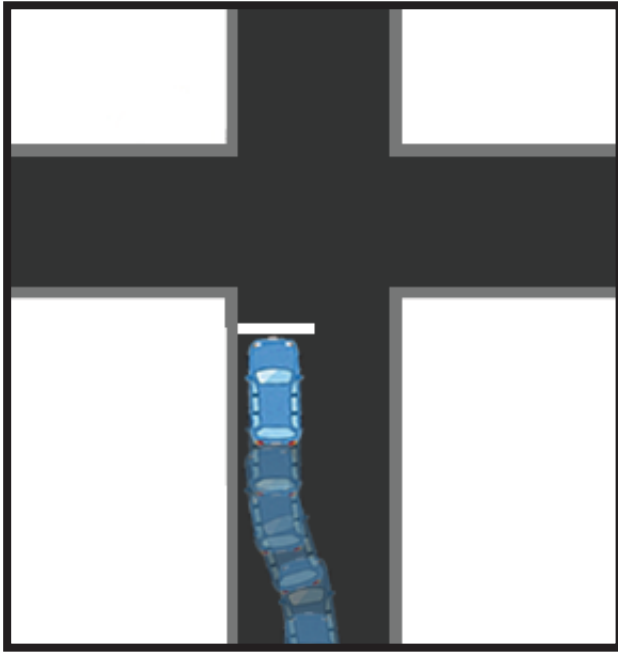
道幅が狭い道路

道幅が広い道路の場合は、対向車がいなければ交差点の先でセンターキープ
するように走行します。対向車が来ていたら、すれ違いできるように右側にスペースを
開けて走行します。

道幅が狭い、すれ違いが難しそうな道路ではそのままセンターキープで走行します。

市街地走行（非優先直進応用編）

非優先直進の他車両がいるときの対応



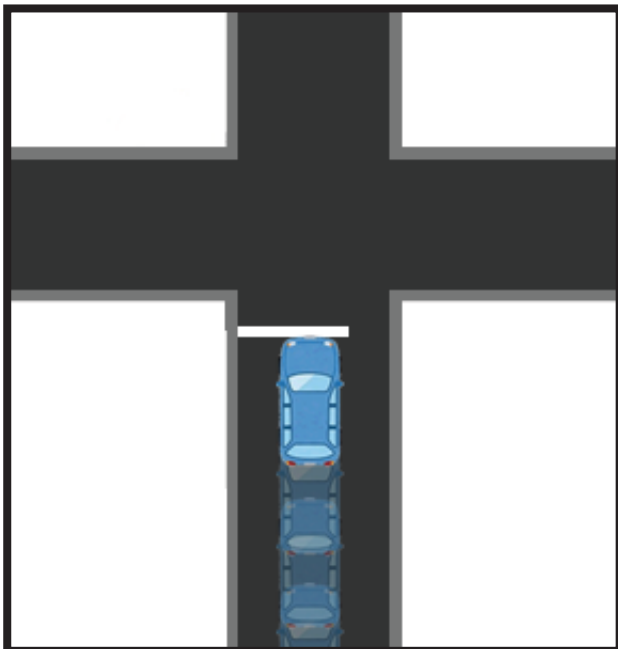
すれ違いができる道幅

- ①左から右折車両が来た時
右から左折車両が来た時
対向から直進・右左折車両が来た時
・先に直進する

- ②前方車両が強引に右左折してきた
・動かず止まって待つ
・後ろを確認後、少し下がる

- ③左右から直進車両が来た時
左から左折車両が来た時
右から右折車両が来た時
・そのまま待つ

すれ違いの難しそうな道・一方通行



- ①左から右折車両が来た時
右から左折車両が来た時
・先に直進する

- ②前方車両が強引に右左折してきた
・すれ違いできないので相手に下がってもらう

- ③左右から直進車両が来た時
左から左折車両が来た時
右から右折車両が来た時
対向から右左折車両が来た時
・そのまま待つ

市街地走行（狭小道路応用編）

狭い道路での直進走行（すれ違いが難しい道幅）

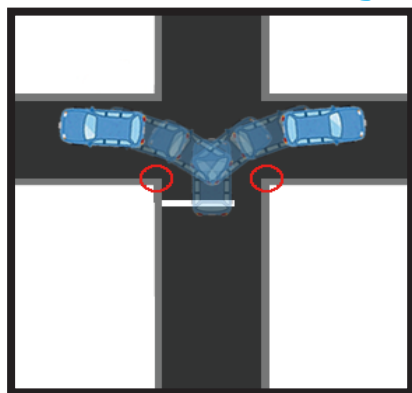
対向車が来ることを予測しながら、どこで交差するか考えながら走行する。

対向車が来た場合は、対向車を見ながら左に寄せるのではなく

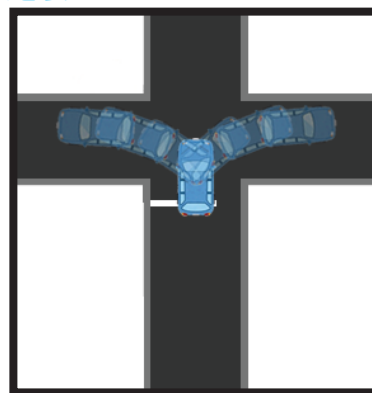
停車の要領で左側に寄ってから対向車を見る。



寄せてもすれ違いができない時の対処法



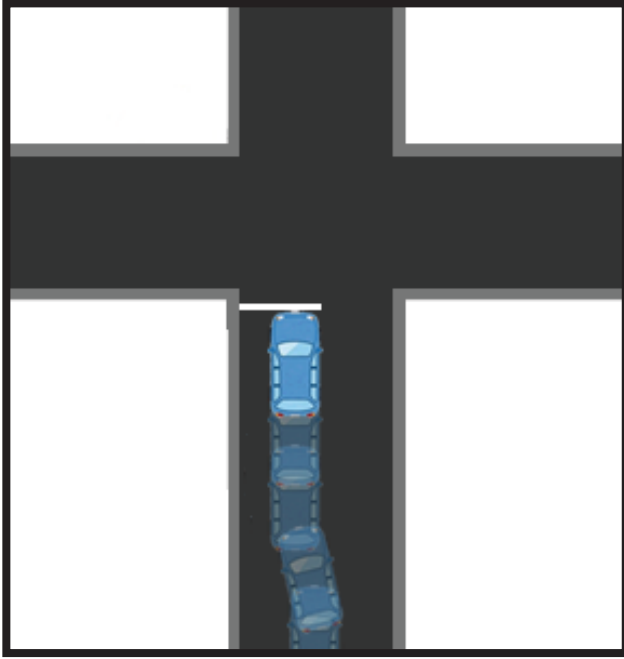
起点の位置から止まったままでハンドルを全部切り（曲がりやすい方に）曲がる。
ハンドルを切ったまま止まってやり過ごす。



ハンドルを切ったまま後方確認後
バックして同じ位置に戻る。

市街地走行（非優先左折と応用）

①非優先左折時の一時停止線までの経路



すれ違いができる道幅の時で左の道が広い時
右側に車両が通れるスペース
を確保しながらなるべく右に寄り左側に
スペースを開ける。

④左から右折車両が来た時

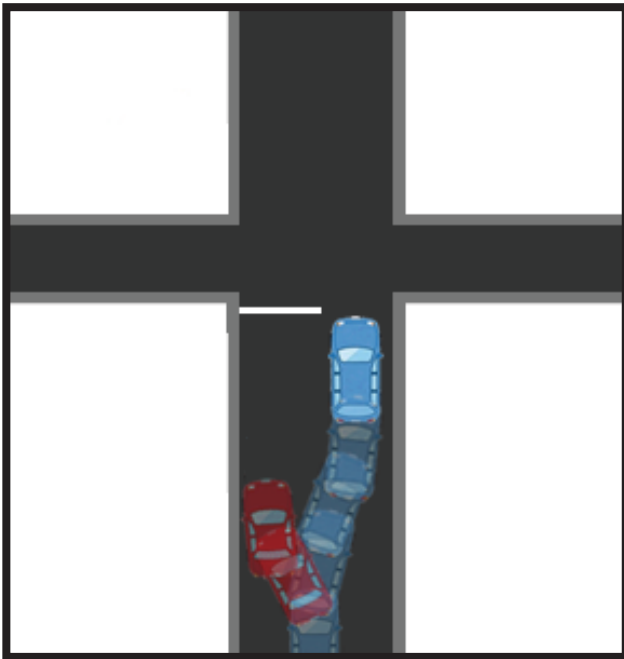
- ・真っすぐ下がる
- ・後方に車両がいたらそのまま待つ

⑤左から直進・左折車両が来た時

- 右から直進・右折車両が来た時
- ・そのまま待つ

⑥右から左折車両が来た時

- 対向から直進・右左折車両が来た時
- ・先に左折する



すれ違いができる道幅の時で左の道が狭い時
対向車を確認して、できるだけ右側に寄る。
対向車が来ていたら、右側に車両が
通れるスペースを確保して、手前で待つ。
(左図赤い車両)

④左から右折車両が来た時

- ・停車のバックで寄せるコツを
駆使しながらすれ違いができるまで下がる
- ・直進して迂回する
- ・後方に車両がいたら直進して停車後
車両がいなくなった後に
バックしてやり直す

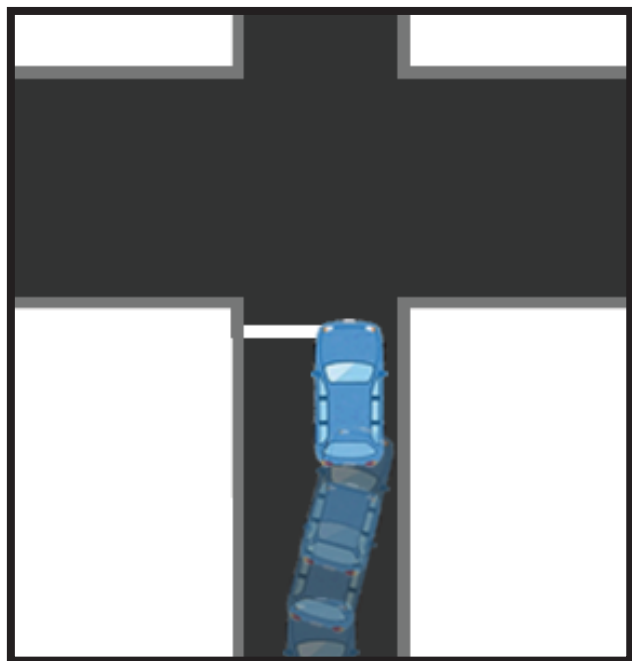
⑤左から直進・左折車両が来た時

- 右から直進・右折車両が来た時
- ・そのまま待つ

⑥対向から直進・右左折車両が来た時

- 右から左折車両が来た時
- ・先に左折する

①非優先左折時の一時停止線までの経路



すれ違いの難しそうな道・一方通行

で左の道が広い時

右にできるだけ寄り一時停止線まで行く

④左から右折車両が来た時

- 先に左折する
- 直進して迂回する

⑤左から直進・左折車両が来た時

右から直進・右折車両が来た時

- そのまま待つ

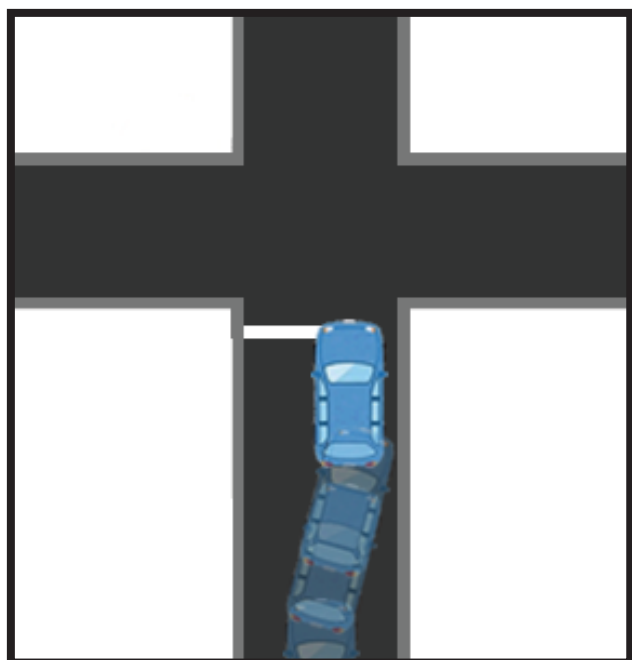
⑥対向から直進・右左折車両が来た時

右から左折車両が来た時

- 先に左折する

Check!

道幅が狭い道路の時は、必ず左側のスペースに応じて起点を気にしてハンドルを切り始める。車両がいると焦ってしまい起点を忘れがちです。車両がいても同じです。



すれ違いの難しそうな道・一方通行

で左の道が狭い時

右にできるだけ寄り一時停止線まで行く

④左から右折車両が来た時

- 直進して迂回する
- 直進して停車後バックしてやり直す

⑤左から直進・左折車両が来た時

右から直進・右折車両が来た時

- そのまま待つ

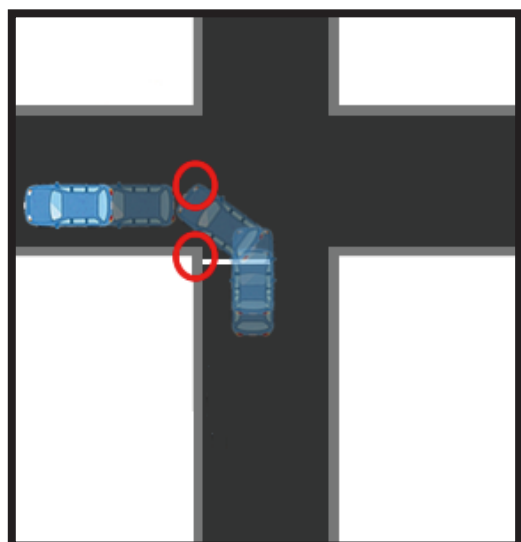
⑥対向から直進・右左折車両が来た時

右から左折車両が来た時

- 先に左折する

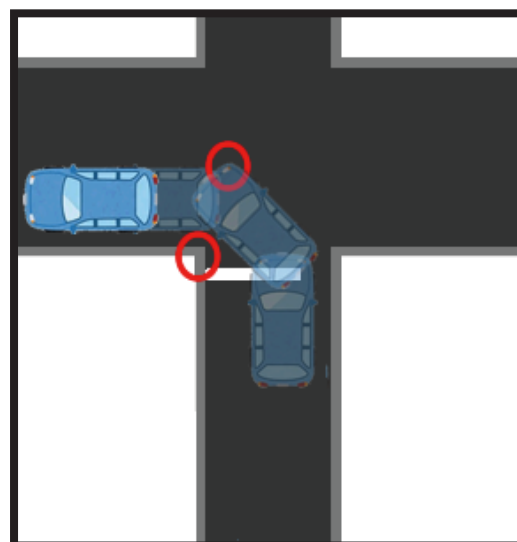
②55・56ページの安全確認

③非優先左折時の走行経路

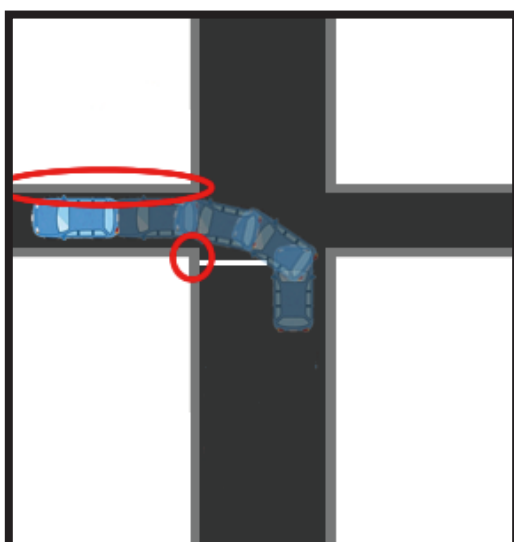


すれ違いができる道幅の時で
左の道が広い時

なるべくコンパクトを意識して起点でハンドルを切り曲がりましょう。曲がり始めたら、
車両の右前角が対向車に接触しないか確認・左ミラーで内輪差の確認の両方が必要になります。



すれ違いの難しそうな道・一方通行
で左の道が広い時

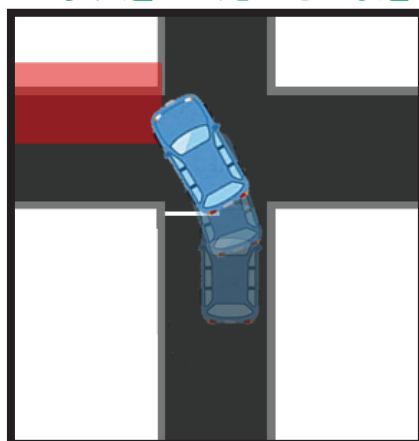


すれ違いができる道幅の時で左の道が狭い時

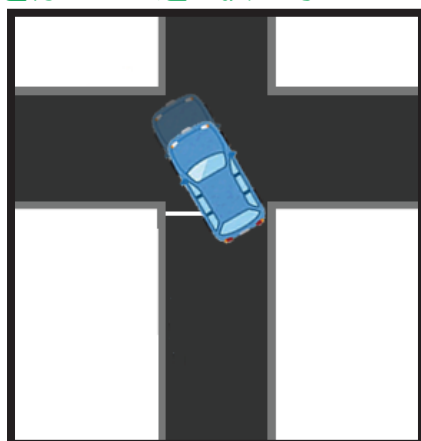
なるべく車両の右前角と曲がる先の右側を
ギリギリにイメージして左折する。

車両の右前角が壁に接触しないか確認・
左ミラーで内輪差の確認の両方が必要になります。

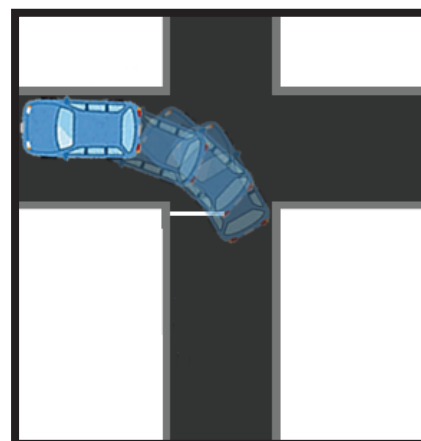
すれ違いの難しそうな道・一方通行で左の道が狭い時



①赤い部分に道路があると
仮定してそこに曲がる様に
ハンドルを切る



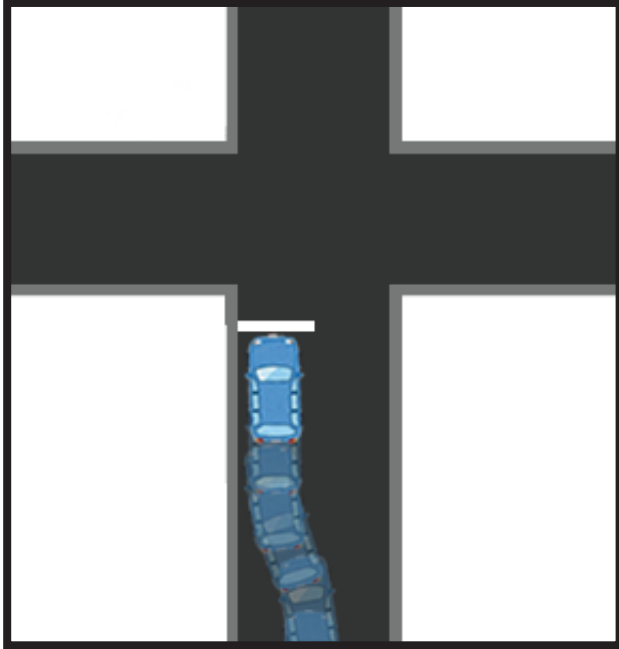
②後方確認後ハンドルを
センターにして真っすぐ下がる



③右前角ギリギリをイメージ
して曲がる。同時に内輪差
も確認。②と③の繰り返し

市街地走行（非優先右折と応用）

①非優先右折時の一時停止線までの経路



すれ違いができる道幅の時に右の道が広い時
なるべく左による

④右から左折車両が来た時

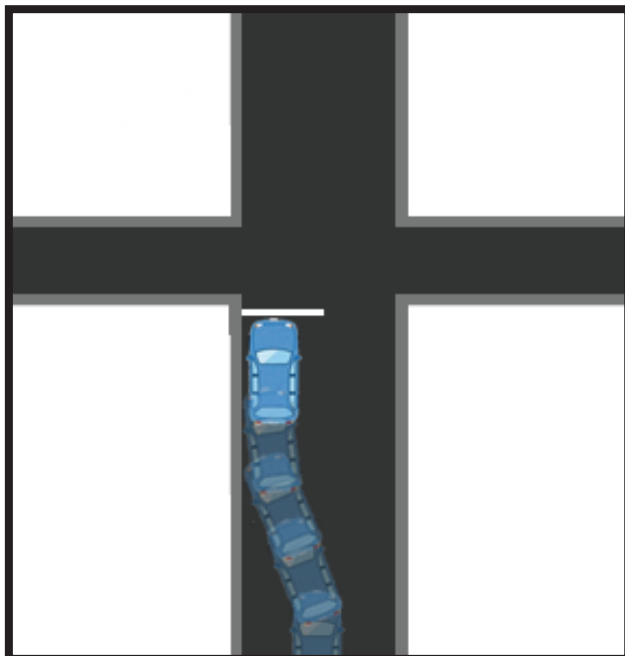
- ・そのまま待つ
- ・後方に車両がいたらそのまま待つ
- ・大回りで右折する

⑤左から直進・左折車両が来た時

- 右から直進・右折車両が来た時
- 対向から直進・右左折車両が来た時
- ・そのまま待つ

⑥左から右折車両が来た時

- ・先に右折する



すれ違いができる道幅の時に右の道が狭い時
なるべく左による

④右から左折車両が来た時

- ・そのまま待つ
- ・すれ違いができるまで下がる
- ・直進して迂回する
- ・後方に車両がいたら直進して停車後
車両がいなくなった後に
バックしてやり直す

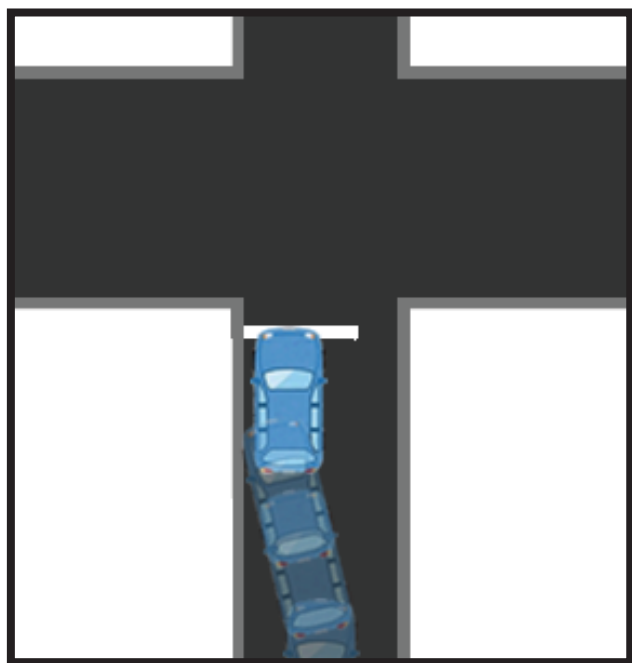
⑤左から直進・左折車両が来た時

- 右から直進・右折車両が来た時
- 対向から直進・右左折車両が来た時
- ・そのまま待つ

⑥左から右折車両が来た時

- ・相手が右折してきたらそのまま待つ
- ・待っててくれたら先に右折する

①非優先左折時の一時停止線までの経路

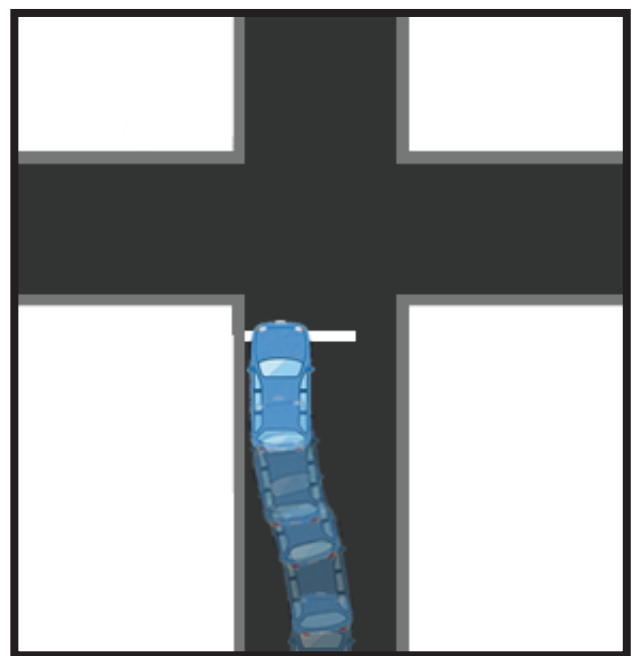


すれ違いの難しそうな道・一方通行
で右の道が広い時
なるべく左による

- ④左から右折車両が来た時
- 右から左折車両が来た時
- 対向から直進・右折車両が来た時
- ・先に右折する

- ⑤左から直進・左折車両が来た時
- 右から直進・右折車両が来た時
- 対向から左折車両が来た時
- ・そのまま待つ

Check! 道幅が狭い道路の時で、右から左折車両が来た時は先に右折しますが
ハンドルを切る位置は、道路の角が起点ではなく、右側の車両の右角が起点となります。



すれ違いの難しそうな道・一方通行
で右の道が狭い時
なるべく左による

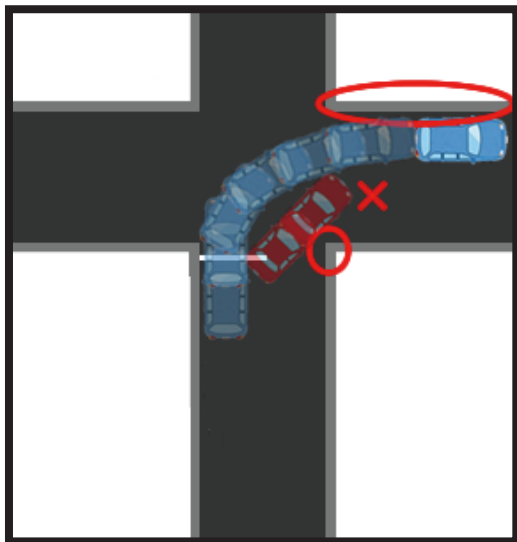
- ④左から右折車両が来た時
- 対向から直進・右折車両が来た時
- ・先に右折する

- ⑤左から直進・左折車両が来た時
- 右から直進・右折車両が来た時
- 対向から左折車両が来た時
- ・そのまま待つ

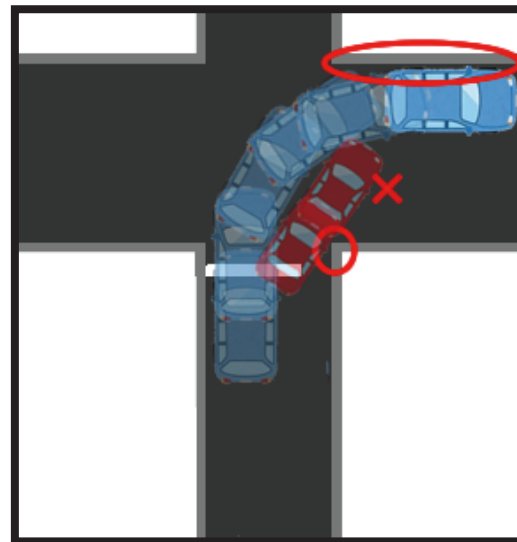
- ⑥右から左折車両が来た時
- ・直進して迂回する
- ・直進して停車後バックしてやり直す

②55・56ページの安全確認

③非優先右折時の走行経路

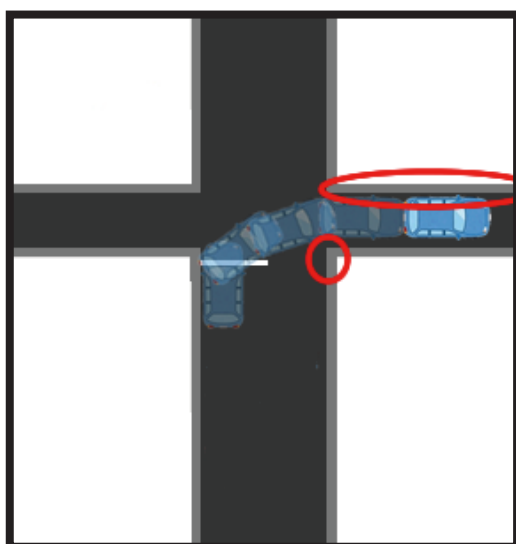


すれ違いができる道幅の時で右の道が広い時



すれ違いの難しそうな道・一方通行で右の道が広い時

なるべく前に出てからハンドルを切り曲がりましょう。インカットは危険です。曲がり始めたら、車両の左前角が対向車に接触しないか確認・右ミラーで内輪差の確認の両方が必要になります。

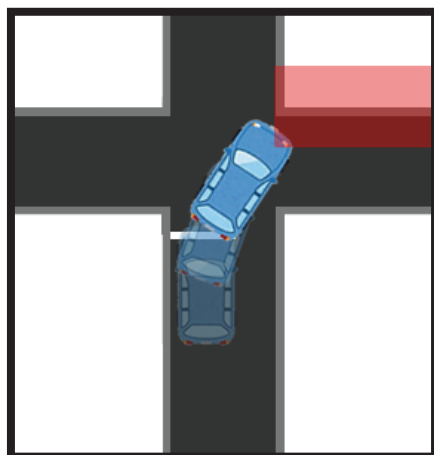


すれ違いができる道幅の時で右の道が狭い時

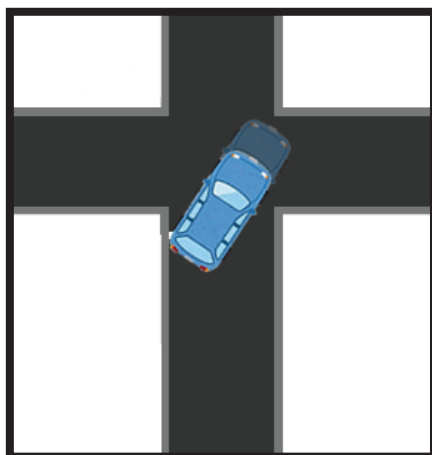
なるべく車両の右前角と曲がる先の左側をギリギリにイメージして右折する。

車両の左前が壁に接触しないか確認・右ミラーで内輪差の確認の両方が必要になります。

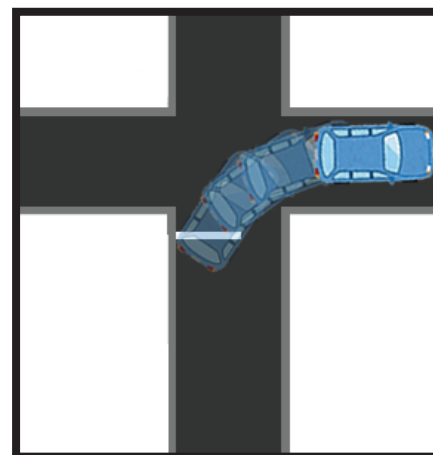
すれ違いの難しそうな道・一方通行で右の道が狭い時



①赤い部分に道路があると仮定してそこに曲がる様にハンドルを切る

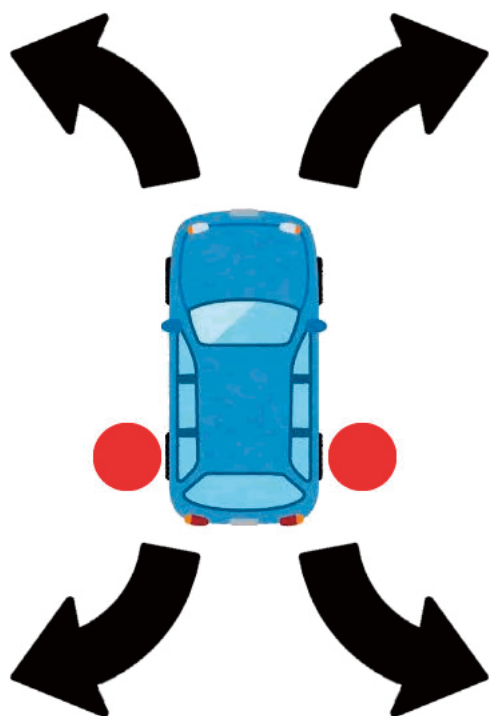


②後方確認後ハンドルをセンターにして真っすぐ下がる



③右前角ギリギリをイメージして曲がる。同時に内輪差も確認。②と③の繰り返し

車の構造（内輪差の理解）



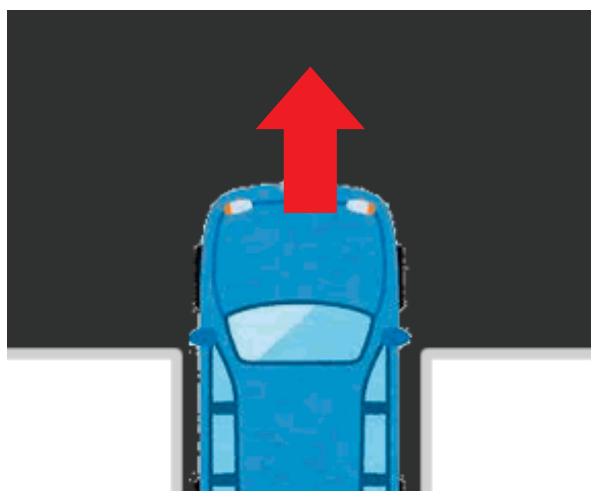
内輪差

前輪より後輪は内側に入ります。

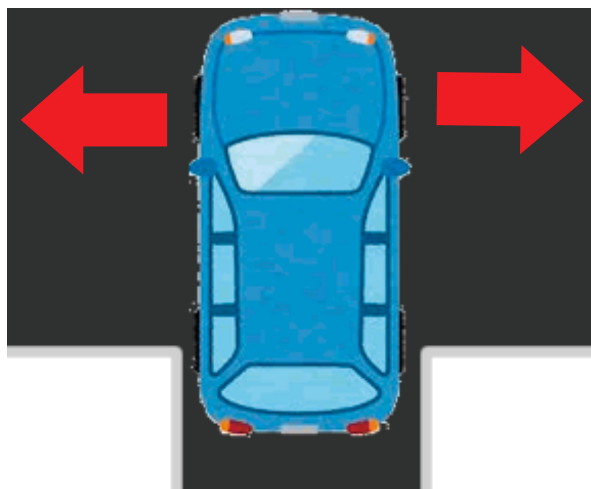
内側に入る起点は後ろタイヤの中心になります。

図のように赤丸の位置なら、

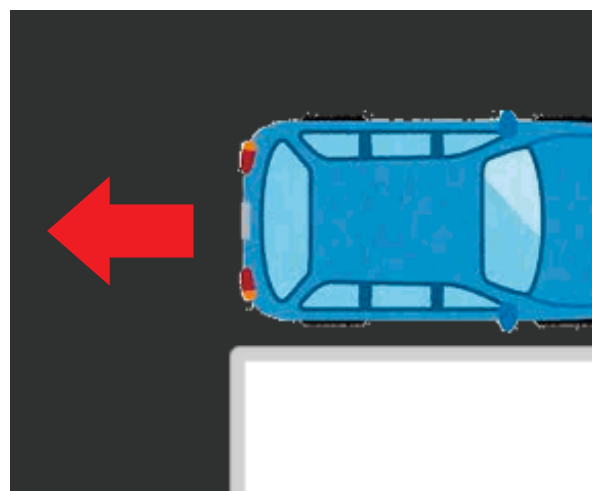
ハンドルをどちらに切っても、前後に出ても
車両には接触しません。



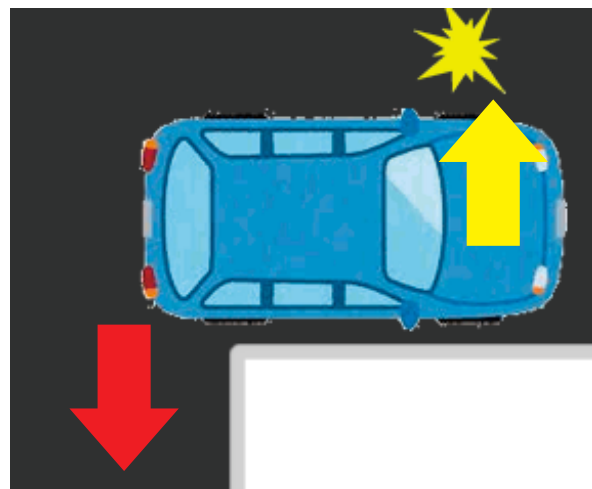
まっすぐ前に出る



後ろタイヤが角に来たらハンドルを切り始める



まっすぐ後ろに下がる



後ろタイヤが角に来たらハンドルを切り始める
車両の前方の角が大きく振ります

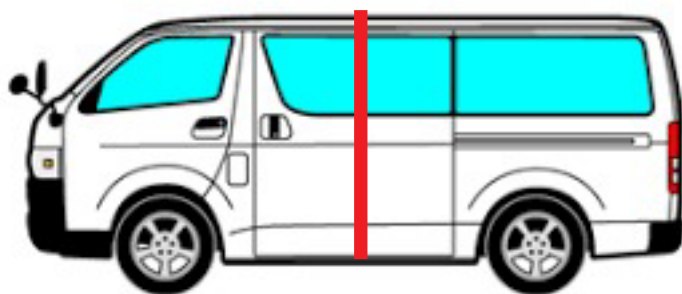
基本走行で教習した「カーブの起点と車両のセンターでハンドルを切る」は通常の交差点では、左側にスペースを作れる為できる事になります。色々な車種のセンターを確認してみましょう。



軽自動車ですと車両が短い分
運転席の真後ろのイメージです。



乗用車だと車両が長い分
運転席の真横のイメージです。

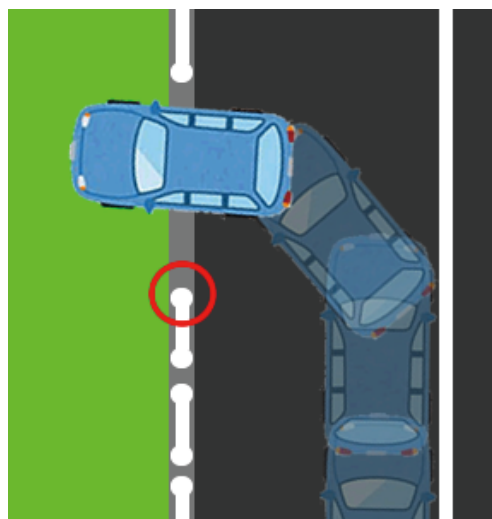
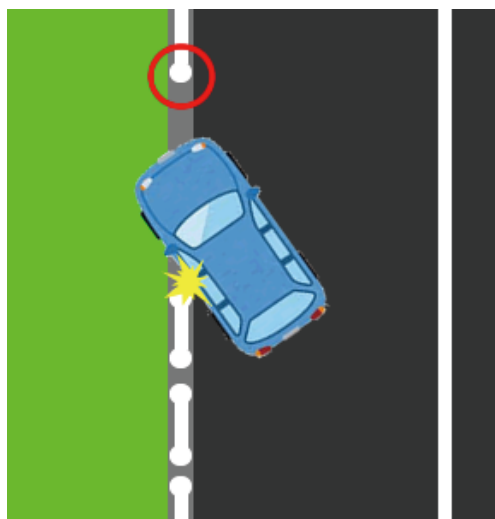


ハイエースなどのバンタイプ
だと後ろの席付近になります。

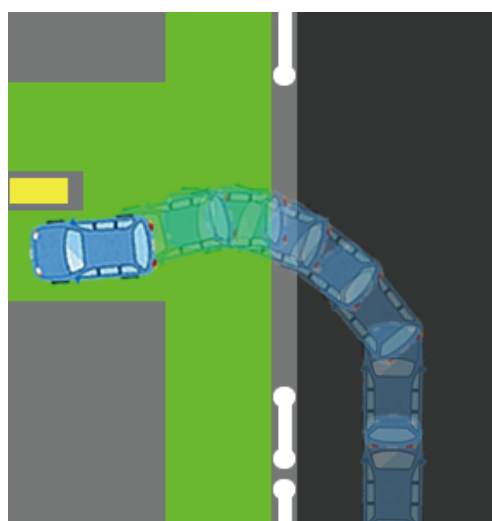
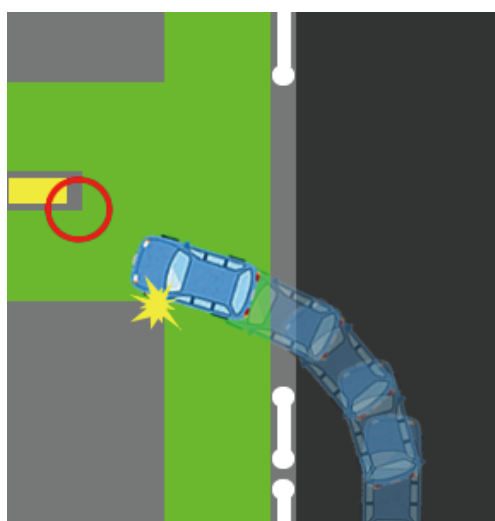


トラックの場合は構造上、ハンドルの
切れ方が変わりますので、
センターではなく後ろタイヤの
前あたりになります。

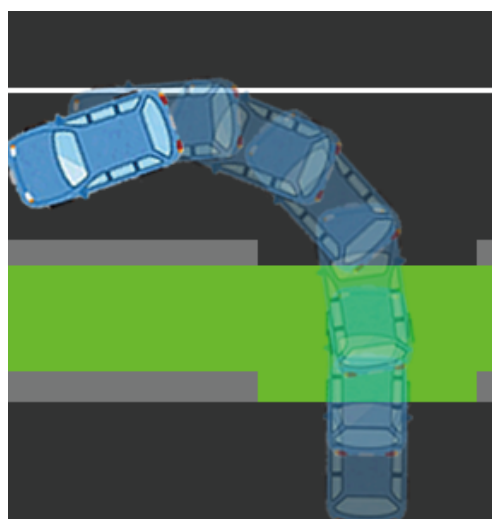
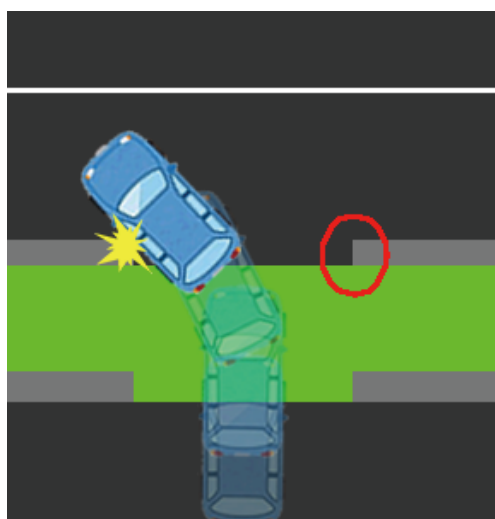
曲がり方のよくある失敗例



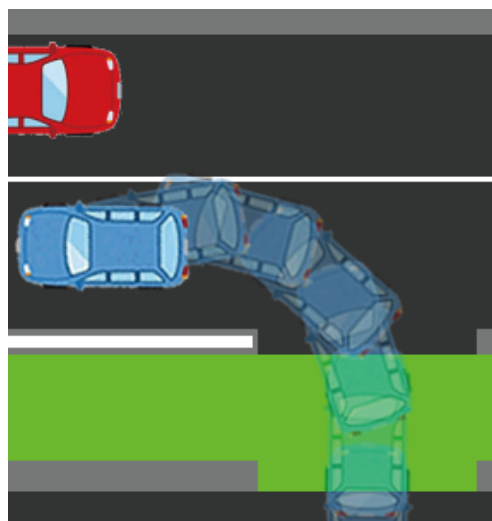
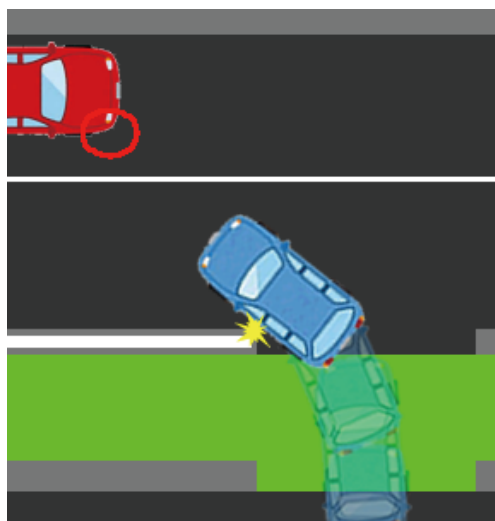
ガードレールがあり入口が狭いと赤丸側のガードレールが気になり、起点を忘れ早切りして接触してしまいます。右側車線にはみ出ないように寄り左側にスペースを開け、止まるぐらいの気持ちで速度を落とし、起点で素早くハンドル操作しましょう。



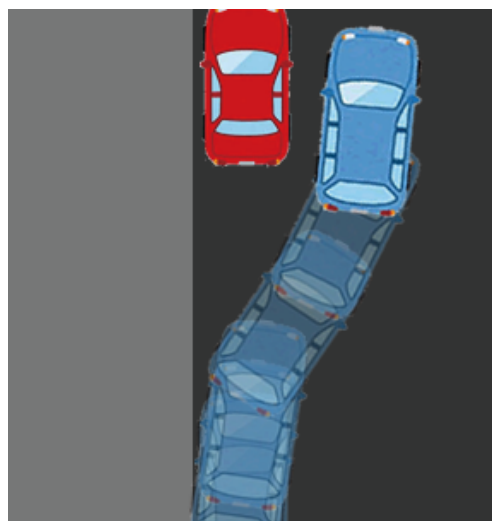
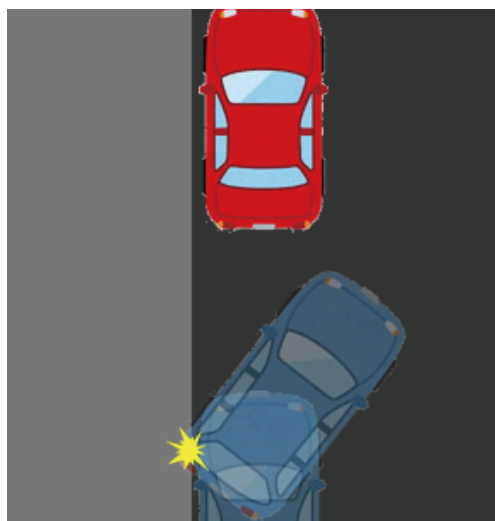
コインパーキングの入り口で、券を受け取る機械に意識が行き過ぎて、早切りになってしまいます。ガードレールも手前で終わり、券売機は奥まっているために起こる錯覚です。車両の前方を振りなおす・大回りしすぎるイメージでクリアしましょう。



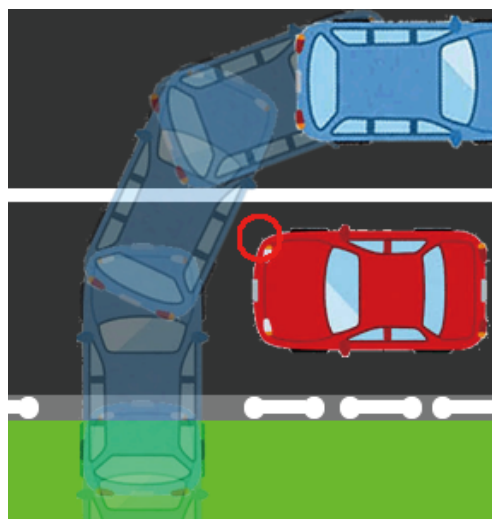
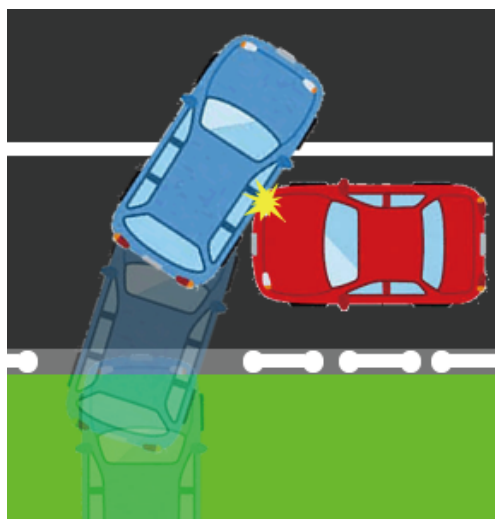
駐車場の出口などで、歩道と車道を分ける縁石だけの場合、そこに意識が行かず反対車線に出ないようにだけ考え、左折してしまい接触してしまいます。ガードレールがあった場合でも同じですが、反対車線にはみ出るつもりで、安全確認をして、左折しましょう。



停車車両が左斜め前方にいと意識が集中してしまい早切りになってしまいます。この場合も反対車線にはみ出るつもりで安全確認して、左折しましょう。停車車両の位置次第では
 切り返しも念頭に置いて、クリアしましょう。



縦列駐車で壁際にギリギリ寄って駐車してしまい、前方の障害物が気になり、最初からハンドルを全部切ってしまうと、後方部が接触してしまいます。なるべく後方にバックして、最初はハンドルを少しだけ（1/4 も切りません）切り、車体が斜めになってから、再度ハンドルを切りクリアしましょう。



駐車場などの出口から右折する時、左側車線の車両が止まっていて、普段の右折では起点を気にしないため早切りしてしまい、右側車両と接触してしまう事故です。車両の右側角部が起点としハンドルを切りましょう。道の広さによっては切り返しも念頭においてください。